



感染性胃腸炎に気をつけましょう

感染性胃腸炎とは、細菌又はウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はウイルス感染（ロタウイルス、ノロウイルスなど）が多く、毎年秋から冬にかけて流行します。また、乳幼児に好発し、1歳以下の乳児は症状の進行が早いです。

◆感染経路◆

- ・ウイルスに汚染された水や食品からの感染
- ・患者の糞便、嘔吐物からの二次感染や、飛沫による感染

◆主な症状◆

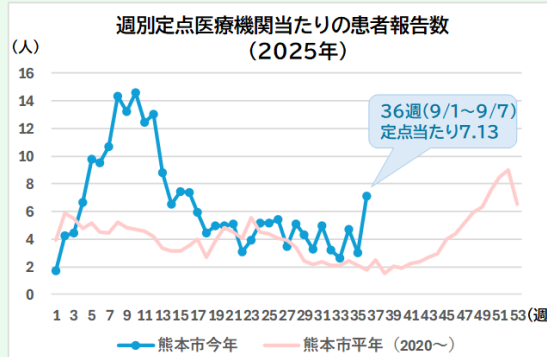
嘔吐又は下痢のみの場合や、嘔吐の後に下痢がみられる場合と様々で、症状の程度にも個人差があります。37～38℃の発熱がみられることもあります。年長児では吐き気や腹痛がしばしばみられます。

◆治療と予防方法◆

治療は、ウイルス性のものでは対症療法が中心となりますが、細菌性、あるいは寄生虫によるものでは病原体特異的な治療を行う必要があります。感染対策としては、食中毒の一般的な予防を行うことと、ウイルス性のものに対しては、流行期の手洗いと患者との濃厚な接触を避けることです。院内、家庭内、あるいは集団内での二次感染の防止策を考慮することが大切です。

感染対策の基本です

こまめに手洗いをしましょう！



定点 種別	疾患名	状況	35週(8/25～8/31)		36週(9/1～9/7)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	—	0	0	19	0.79
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		221	9.61	180	7.50
	急性呼吸器感染症(ARI)		1224	53.22	1429	59.54
小児科	RSウイルス感染症		18	1.29	14	0.93
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	2	0.14	3	0.20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	12	0.86	16	1.07
	感染性胃腸炎	—	42	3.00	107	7.13
	水痘(みずぼうそう)	—	0	0.00	3	0.20
	手足口病	—	5	0.36	6	0.40
	伝染性紅斑(りんご病)	○	47	3.36	42	2.80
	突発性発しん		9	0.64	12	0.80
	ヘルパンギーナ	—	2	0.14	1	0.07
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	2	0.14	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	11	2.20	7	1.40
基幹	細菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
	無菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
	マイコプラズマ肺炎		20	4.00	10	2.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル —:警報・注意報レベルなし